

画像所見から絞り込む！

頭部画像診断 やさしくスッキリ教えます

contents

● 序	山田 恵	3
● 執筆者一覧		7
● Color Atlas		8
● 本書の使い方		10

Chapter 1 読影の前に

1 救急現場における検査適応を考える	武部 弘太郎, 太田 凡	12
2 Choosing Wisely	隈丸 加奈子	18
3 医療被ばく～最近の知見	宮崎 治	23
4 最低限必要な読影環境	松島 成典	28
5 救急で最低限必要な大脳の解剖	小西 淳也	33
6 救急で最低限必要な後頭蓋窩の解剖	豊田 圭子	38
7 動脈の解剖	竹内 香代	42
8 静脈の解剖	田岡 俊昭	47
9 脳室・脳槽の解剖	内山 雄介	51
10 救急における画像診断の戦略	山田 恵	57

Chapter 2 CT所見からのアプローチ

《A. 基本的な所見》

1 脳実質内：高吸収	井上 明星	66
2 脳実質内：低吸収	松木 充, 浜川岳文	71
3 脳実質外の異常所見	坂本 亮	80
4 単発性の腫瘍	岡本 浩一郎	89
5 多発病変	明石 敏昭	96
6 正中病変・対称性病変	中塚 智也	102
7 脳室開大～水頭症, 萎縮	赤澤 健太郎	109
8 ヘルニア・シフト	與儀 彰	116
9 病変は血管支配域に一致するか？	増本 智彦	122
10 脳以外のチェックリスト	山本 憲	128
11 アーチファクト～後頭蓋窓を観察しにくい	村山 和宏	134

《B. CTの次の一手》

1 造影剤を使うべきか？～造影CTの適応とは？	早川 克己	138
2 MRIを考慮すべきか？	中村 尚生	145
3 血管造影を考慮すべきか？	宮坂 俊輝	149
4 死後CT	白田 剛	154

Chapter 3 MR所見からのアプローチ

《A. 基本中の基本》

1 拡散強調画像で高信号	篠原 祐樹	160
2 FLAIR画像で脳脊髄液を見る	高須 深雪	167
3 T2*強調画像, SWIの威力	掛田 伸吾	172
4 flow voidは必ず確認	塙部 明大	178
5 髄膜の異常所見	徳丸 阿耶	184
6 所見のない疾患だって存在する	森 墾	194
7 MRIのアーチファクト	横山 幸太, 野口 智幸	201

《B. ハイレベルな判断》

1 造影剤を使うべきか？	中條 正典	206
2 次の一手：MRA・wall imaging	横田 元	211
3 次の一手：造影後FLAIR・MRV	野口 京	216
4 次の一手：灌流画像	工藤 輿亮	221

Chapter 4 来院時の状況からのアプローチ

1 頭部外傷	東 美菜子	226
2 頸椎外傷	齋藤 尚子	230
3 顔面部外傷	外山 芳弘	235
4 これは虐待？	藤田 和俊	238
5 意識障害	木下 俊文	241
6 上肢麻痺	池田 耕士	245
7 頭痛・発熱	鈴木 卓也	248
8 頸部痛・背部痛	藤間 憲幸	253
9 めまい	北島 美香	257

Chapter 5 常に頭においておく重要な疾患

1 脳梗塞	関根 鉄朗	262
2 脳動脈瘤破裂	坂本 真一	268
3 ニューロインターベンションの実際～急性期血栓回収術	井手 里美	272
4 感染症	鹿戸 将史	278
5 代謝性疾患・中毒	岡崎 隆	282

● 略語一覧	288
● 索引	289